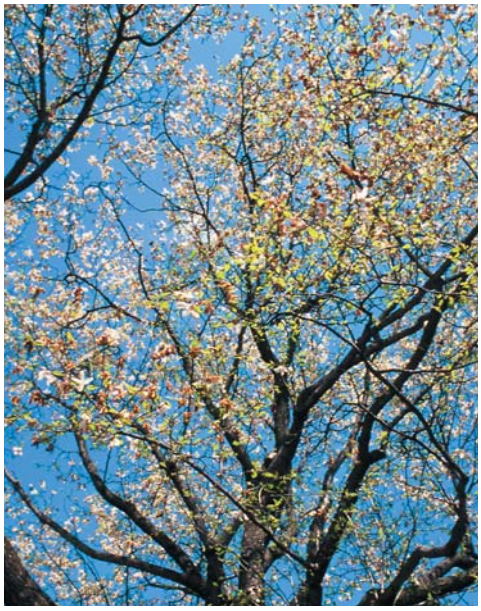
花を見る

ハルニレの花

花らしい花 ― 林を彩り虫を呼ぶ


春の訪れを告げるキタコブシの花（４～５月）

花は私たちの目を楽しませてくれるだけでありません。虫たちを呼び寄せて雄しべの花粉を運んでもらったり、風に花粉を運んでもらったりします。そして雌しべで花粉を受けて、タネを作り出すという役割を持っています。

色や大きさだけでなく、花びらの数、形、花の付き方、咲く時期など様々な違いがあります。

強く良い香りをはなつエゾノウワミズザクラの花（５～６月）
雄しべが花びらより短い。花の大きさは約1.2cm

キタコブシ（４～５月）北海道ではマンサクと呼ばれ「まず咲く」の意味があるという。花びら(花弁)が６枚ある。花の直径約12cm

ノリウツギ（７～８月）ツブツブに見えるところが本当の花。約４㎜。花びらに見えるのは「ガク」で、飾りの花（装飾花）である。約２cm

ホザキシモツケ（７～８月）約６㎜の花が穂のようにたくさんつく。こういう花の付き方を、円錐花序（えんすいかじょ）と呼ぶ

ヤマハギ（８～９月）マメ科によく見られる形の花で、蝶型花と呼ばれる。長さ約1.5cm

イヌエンジュ（７～８月）ヤマハギと同じく蝶型花である。長さ約１cm

ナワシロイチゴ（５～６月）一番開く時でもガクだけ開いて花びらは閉じたままである。約２cm

ヤナギの花 ― 目立たないが春一番に咲き出す

花芽が芽吹いたエゾヤナギ（２月）

ようやく冬の寒さが少し和らぐ２月下旬～３月になると、ヤナギの枝には白い綿毛の穂が開き出します。これはヤナギの花芽が芽吹いた時、中の花を包んでいるものです。

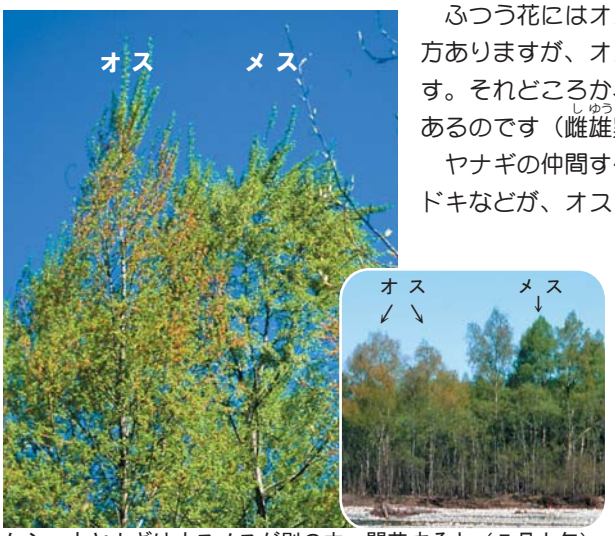
ヤナギの花は花びらを持たず、細かな花が集まって、２～６cmの動物の尾のような形（尾状花序）となり、虫に花粉を運んでもらいます。

花芽が開いた時の綿毛や開いた花を、ネコと呼び、この頃のヤナギを「猫柳」と呼んで生け花などに用います。ただ種名としてのネコヤナギ（→ｐ11）というのもあるのでまちがえないで下さい。

オノエヤナギの雌花（４～５月）。花びらはなくても美しい

エゾヤナギの雄花（４～５月）。ヤナギの花「ネコ」は英語でも「キャトキン（catkin＝子猫）」と呼ばれる

オスの花・メスの花、オスの木・メスの木



ケショウヤナギはオスメスが別の木。開花すると（５月上旬）赤みを帯びた雄花のために、オスの木は茶色っぽく見える

ふつう花にはオスの部分（雄しべ）とメスの部分（雌しべ）が両方ありますが、オスの花とメスの花が分かれている木も多くあります。それどころか、木自体がオスとメスに分かれているものも結構あるのです（雌雄異株）。オスの木には実や種はなりません。

ヤナギの仲間すべて、ヤチダモ、ヤマグワ、キハダ、ツルウメモドキなどが、オス・メス別の木となっています。

ケヤマハンノキは、オスの花（長く垂れている）とメスの花（その根元）が別。

参考文献

「山渓ハンディ図鑑３ 樹に咲く花 離弁花①」茂木透 写真 山と渓谷社 2000

「山渓ハンディ図鑑４ 樹に咲く花 離弁花②」茂木透 写真 山と渓谷社 2000

「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎 （社）北海道治山協会 2001

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995